

氏名 國 方 永 治

学位(専攻分野) 博 士(医 学)

学位授与番号 博 乙 第 2549 号

学位授与の日付 平成 5 年 3 月 28 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 肺癌組織内ヒト成長ホルモンの免疫組織学的および臨床的検討

論文審査委員 教授 木村 郁郎 教授 赤木 忠厚 教授 折田 薫三

### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

肺癌患者の中には骨関節症や末端肥大症を合併するものがあり、ヒト成長ホルモン(hGH)との関係が研究されてきた。しかし内分泌症状をなんらもたない肺癌でのhGHの産生に関する系統的な研究はいまだ充分にはおこなわれていない。そこで近年普及してきた酵素抗体法を用いて肺癌組織におけるhGHの局在とその臨床的意義について検討した。160症例より得られた原発性肺癌組織を材料としてSternbergerらのperoxidase antiperoxidase法に従い、一次抗体として抗hGHウサギ抗体(DAKO)を用いて免疫染色をおこなった。

その結果、hGHは腫瘍細胞の細胞質内に細顆粒状に存在し、hGH陽性細胞は扁平上皮癌および腺癌では散在性にカルチノイドではびまん性に分布していた。hGH陽性は160例中34例(21.3%)にみられ、扁平上皮癌64例中19例(29.7%)、腺癌48例中13例(27.1%)、カルチノイド5例中2例(40%)であった。小細胞癌26例、大細胞癌17例はすべてhGH陰性であった。

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、肺癌組織内ヒト成長ホルモンを免疫学的および臨床的に検討したものであるが、従来十分確立されていなかったその肺癌組織内の局在とその臨床的意義について検討し、扁平上皮癌と腺癌およびカルチノイドにおいて高値をとることを認め、又肺門部肺癌に高値を認めており、重要な知見をえたものとして価値ある業績であると認める。

よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。